

MEDICAL TOPICS

地域の健康を守る  
光竹会グループ

診療からリハビリ、介護、暮らしの支援までをトータルに展開

脳神経外科が専門の呉義憲先生が主宰する光竹会グループは、『ごう脳神経外科クリニック(那珂川市)』、『大橋 ごう脳神経外科・脳神経内科クリニック(福岡市南区)』、『平尾 ごう脳神経外科クリニック(福岡市南区)』、『昨年開院した『ごう脳神経画像診断クリニック』の4つのクリニックと、デイサービスや老人ホームといった介護事業などを展開。密な連携で地域の医療と暮らしを支えている。



『ごう脳神経画像診断クリニック』のスタッフのみなさん。光竹会は、「脳の専門医療と介護の力で、ずっと安心できる毎日へ」を掲げ、患者様満足度日本一を目指す

Hospital Data



ごう脳神経画像診断クリニック

〒815-0042  
福岡市南区若久1-1-6  
☎092-555-5202  
<https://www.kouchikukai.or.jp/wakahisa/>



診療科目

脳神経外科

診療日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	○	○	○	○	○	○	—
14:00~18:00	○	○	○	○	○	○	—

休診：日祝日



「画像処理技術」高度な3.0テスラ MRI (FUJIFIL社Trillium OVAL Cattleya)

高性能のMRIで  
早期発見・予防医療を

早期の対応が重要となる脳の病気に対し有効なのがMRIによる診断。こちらでは、大病院でも使われている3.0テスラMRIを導入している。

「1.5テスラMRIと比べ画質が飛躍的に向上しています。血管や神経がきれいに見え、これまで見ることができなかった小さな小さな動脈瘤などが画像診断で把握でき、早期発見・予防医療に有用です。短時間で行なえますし、これまでカテーテルでしかわからなかったことも確認できるようになり、患者さんの負担も大幅に軽減されますね。慢性的な『頭痛持ち』という方は多いと思います。ほとんどの場合が二次性頭痛ですが、MRIで下垂体に腫瘍を発見したケースもありました。『たいしたことない』と思わずに一度調べてみることも必要です。また、脳卒中や認知症な

どのリスクを早期に発見する脳ドックも行なっています」。

太田先生はクリニック名に冠している『脳神経画像診断』以外に、内科の治療、糖尿病への対応、予防接種など幅広い医療にも取り組む。「MRIも脳だけではなく、全身を検査することや、地域の整形外科と連携した運動器の検査も行なっています。頭痛にしても、頭痛薬の使い過ぎで生じる薬物乱用頭痛というものもあつたりしますので、自分の身体で気になることがあれば気軽に相談してください。『地域の皆様に安心できる医療で貢献したい』が私たちの願いです」。



明るくゆったりとした空間でリラックスできる待合室

頭痛について

我慢している頭痛が  
脳の病気につながることも

緊急性が異なる  
一次性頭痛と二次性頭痛

頭痛とは頭部の一部や全体の痛みの総称。風邪に付随して生じすぐに解消するものや、慢性的なものなど様々な頭痛があるが、重篤な病気につながっている場合もある。「頭痛は二次性頭痛と二次性頭痛に大別されます」と太田先生。

「二次性頭痛とは、片頭痛(頭の片側あるいは両側にズキズキと脈打つような強い痛みが生じる慢性的な頭痛)、緊張型頭痛(頭が締め付けられるような痛み)、群発頭痛(片側の目の奥や

眼球、側頭部を中心に起きる激しい痛み)など、他の病気が隠れているのではなく、頭痛そのものが病気であるもの。肩や首のこりでも生じますし、ストレスや精神的なことが原因となることもあります。受験シーズンの前は受験生からの相談も多くなりますね。また、日常生活における姿勢、不眠・寝過ぎ、気圧の変化で生じる頭痛もあります。頭痛の状態を言葉で説明するのはとても難しいと思いますが、『首筋のこりが痛い』とか『右のこめかみが痛い』とか『痛い場所を細かく教えていただければ、適切な治療に役立ちます』。

特に注意が必要なのは頭痛が脳や



「事実を伝える必要はありますが、患者さんができるだけ傷つかわないようにやさしい対応を心がけています」とやわらかな口調の太田先生

頭の病気に起因している二次性頭痛。副鼻腔炎、眼精疲労、顎関節症などが原因の他、命に関わる脳の病気が原因となっている場合があるからだ。

「脳腫瘍、髄膜炎、脳炎、クモ膜下出血や脳卒中などが引き起こす頭痛は緊急性が高いものです。これまでに経

験がないひどい頭痛、突発して短時間でピークに達するような頭痛、熱がある、手足の麻痺やしびれを伴うような場合には至急、脳神経外科または脳神経内科を受診して正確な診断を受ける必要があります。頭痛が数週間のうちに悪化しているような場合には、脳腫瘍や慢性硬膜下血腫などの疑いもありますね」。

頭痛に関係していることがある脳の病気。発症の可能性には、生活習慣も大きく関わっているようだ。

「高血圧、喫煙、多量の飲酒などはリスクファクターになりますね。また、加齢による血管の傷みなど、年齢にも関係しています。例えば、40代以上の女性は動脈瘤の破裂によるクモ膜下出血が多いという統計もあります。高齢になると注意が必要です」。



ごう脳神経画像診断クリニック 院長

太田 雄一郎先生

東京都出身。東海大学医学部卒、脳神経外科専門医。東京大学医学部附属病院救急科、福岡脳神経外科病院脳神経外科医長、土別市立病院内科医長等を経て、2025年10月に「ごう脳神経画像診断クリニック」院長に就任。